

TOKIWA

2022
.....
SUMMER
.....
vol.208

INTERVIEW

“安全安心”、“美味しい” 食事の2つの心がけ



INTERVIEW

“安全安心”、“美味しい” 食事の2つの心がけ

今回の広報誌「TOKIWA」夏号では、エームサービス株式会社東日本HSS事業本部長の傍島祐二様にインタビューしました。ときわ園は給食サービス業務をエームサービス株式会社に委託しています。

― 傍島様は現在エームサービス株式会社で、どのようなお仕事をしておられますか？

東日本HSS（※）事業本部にて病院・福祉施設給食提供事業を、北海道から静岡県までの東日本エリアを管理管轄しております。

（※）HSS＝ヘルスケアサポートサービス

― エームサービス様の強みをご紹介ください。

一言でいえば「総合力」と「人財」であると考えています。弊社は、病院・福祉施設給食のほか、社員食堂、研修所、スタジアム、刑事施設等の食事提供も実施しており、多くのノウハウとそれに携わる多くの「人財」がおります。これらの知見・経験が各事業に波及することによって、優れた品質のサービスにつながっていると考えています。

― エームサービスは国際的なスポーツイベントの飲食提供にも多く関わっていると聞いています。その様子をお知らせいただけますか？

全世界のアスリートが集まる大規模な大会の飲食提供業務を担当させて頂くこともあり、そのようなイベントになると、準備期間を入れて数年間の歳月をかけて対応しています。スタッフ数が4,5千人規模、1日の提供食数が

45,000食に及ぶこともあります。特に海外のアスリートを対象とする場合は、各国の料理に加えて、多様性にも配慮し、ハラル食やグルテンフリー、ベジタリアンなどの食事をご用意します。また、スポーツ栄養の面では、弊社在籍の公認スポーツ栄養士・管理栄養士の知見を生かせる良い機会にもなっています。イベントの規模に応じて、全国の事業所からスタッフを派遣していますが、全社一丸となって取り組めることは、会社にとって良いレガシーになっていると感じています。

― ときわ園の食事ではどのようなことを心がけていますか？

1つ目は、「安全安心」な食事提供です。2つ目は「美味しい」食事の提供です。弊社が提供する食事に不可欠なことは「100%安全」であり、しっかり栄養管理され、何よりも「美味しい」ということです。美味しい食事でないといと食べて頂けませんし、利用者様の健康管理を維持できません。また、なによりもご家族様の安心につながらないと考えております。

― ときわ園では今後どのような食事を提供していきたいと思われませんか？

安全安心と美味しさを追求して食事を提供させて頂いておりますが、今後



エームサービス株式会社 東日本HSS事業
本部長 傍島 祐二 様

は、更に喜んでもらえる為に、例えば、「今月は〇〇さんからのリクエストメニューです！」など、できるだけ利用者様に寄り添った食事提供を行ってきたいと考えております。

― 最期にときわ園の魅力をお聞かせください。

利用者様の笑顔で溢れており、とても和やかな雰囲気の魅力だと感じております。また、施設のスタッフの皆様が明るくいきいきとお仕事されていて、「いつも美味しい食事をありがとうございます。」とお礼の言葉をかけて頂くこともあり、弊社のスタッフも仕事にやりがいを感じることができております。利用者様のために、施設内で働く方々が一体となってサービスを提供されていると感じております。

傍島様、この度はインタビューに応じてくださりありがとうございました。



打合せ中の様子



ときわ園給食委託1周年イベント食

剣？それとも癒やし？

理事長
三枝 弘朋



ネット上での誹謗中傷が社会問題となっているため、インターネット上の誹謗中傷対策を目的に侮辱罪が厳罰化されることになったという報道を聞きました。侮辱罪は、公然と人の社会的評価を害した場合に適用される刑と言われているのですが、こうした法律の改正で誹謗中傷によって苦しむ人が少なくなれば良いと感じます。

他人を誹謗中傷する人の動機は、憎しみや差別、偏見、人を見下して自分を優位に立たせようとする気持ち、自分の意見や考えが違う人を排除しようとする考え、鬱憤晴らしなどが主なものと言われている。また、インターネットですと、自分の身分を隠して言いたいことを言えるという状況も誹謗中傷を助長しているのかもしれない。

害を加えるつもりはなかったという人もいますが、結果として相手に不利益を被らせたり、精神的なダメージを与えたり、自殺に追いやりたりするのであれば、そのような言い訳はできないと言えます。心に満ちあふれているものが口から出ると言われるように、普段からよく考えていることが言葉として出てしまうというわけです。

ときわ園職員の心得の中に、「人権尊重と尊厳の保持」が挙げられています。多くの福祉施設で、このような方針を掲げていると思いますが、簡単なことではありません。誹謗中傷したり、暴力を振るったりして人権侵害をすることはないとしても、言葉も相手を励ましたり、力づけたり、喜

ばせることもできれば、剣で突き刺すかのようにダメージを与え、尊厳を傷つけてしまうものにもなりかねません。よく言われる例えですが、自動車は便利な道具で、生活の中でなくてはならない有用なものです。使い方を間違えると人の命を奪う凶器になってしまいます。言葉も同じだと思います。自動車の運転のように、時にはヒヤッしたり、失敗してしまうこともあるかもしれません。それでも、意識して、他の人にとって快く癒やしとなるような言葉を語りたいと願います。特にご利用者に対して、「言葉の剣」で心をぐさっと刺してしまわないよう「人権尊重と尊厳の保持」をいつも意識し、人を癒やす言葉を語っていききたいと思います。

ソロモン諸島はどんなところ？

管理栄養士
岩井 潮里



この春からときわ園でお仕事をさせて頂いております。2年前までは海外協力隊に参加し、栄養士ボランティアとしてソロモン諸島に2年間滞在しておりました。ソロモン諸島はオーストラリアの右に位置する南国の島

です。太平洋戦争中、日本人にとって悲しい歴史がありましたが、島民は日本人にとっても好意的です。

ソロモン諸島では近年、伝統的な芋や野菜の食事からカップ麺、スナック菓子などへ食生活が移行し、生活習慣病が問題になっています。私は啓発活動として現地の同僚と小学生への栄養教育や運動習慣のないオフィスワーカーに対し体操を実施しました。しかし実際の所、仕事は自分で探すことも多く、頼まれれば職種に関係なくトライし、瞬

く間に2年は過ぎてしまいました。残念ながら高齢者の福祉施設もなく、ご高齢の方と接する機会はありませんでした。日本とは生活環境が随分異なっているようです。

私は今、ときわ園で働かせていただいている事も何かのご縁だと思います。いつか、島での生活についてご利用者ともお話できる機会があるかも知れません。



小学校での栄養教育の様子
アイスやジュースに入っている砂糖の量を教えている



伝統的な窯で芋やキャッサバなどを
小学校の校庭で焼いている

デイサービスの活動

活動の幅を広げることができるデイサービスとして、フロアでのレクリエーションやフロア越しに広がる畑での園芸活動、テラス席での優雅な時間を各々が選択して一日を過ごします。何気ない日々のひと時を穏やかに過ごして頂いております。機能訓練室では個別対応型の機能訓練はもちろん、自主的な反復訓練にも取り組む環境を整備しております。



初夏のこもれびの下庭園散歩



金魚にエサやり



テラス席で新聞を…



快晴の外気浴



活花の手入れ



倒さないよう慎重に…



スナップエンドウの収穫



庭園で談話



青空の下で歩行訓練



ちぎり絵作成中



丁寧に塗り絵を…



レクリエーション風景



畑の草取り



畑の水撒き



談笑しながら収穫



車椅子でも収穫に参加



昔を思い出しながら…



テラスでジェンガ



歩行訓練



下肢動作訓練



上肢の可動域訓練



つまみ動作の機能訓練

「個々に合わせた介護サービス どのように」

デイサービスこもれび
介護職員
田崎 大介



デイサービスを利用しているご利用者は、現在も自宅で過ごしておられます。それぞれ生活してきた地域や家族構成、職業は異なっています。関心事も人それぞれですが、そのような違いを尊重したサービスを目指しています。

例えば、毎日歓談の時間がありますが、誰もが参加できる内容にしています。農業や家事の話に関心がある人と、経済や社会問題の話に関心がある人のどちらにも関係のある共通点を取り上げるように心がけています。また、昔の暮らしを振り返る話の内容は誰もが経験してきたこ

となので、懐かしいと喜ばれています。

さらに、個々の活動も関心あるものを選んでいただいています。塗り絵やパズルや工作など座席で行う活動のほかに、花壇の手入れや、野菜作りと収穫など、アクティブな活動も提供す



工作レク



野菜作り

ることで、充実感を得ていただけるように心がけています。

デイサービスこもれびを利用することで、好きなことを続けたり、社会の一員としての自信を保っていただけたたりできるよう願っています。

BCPの強力なサポーター到来！ 非常用自家発電設備導入

業務サポート部門
リーダー
田村 知之



これまで、停電の際にはポータブルの非常用発電機5台で対応してきましたが、2019年の台風による数日間の停電ではあまりに非力でした。そのため、今後も同様の災害があることを想定し、「高齢者施設等の非常用自家発電設備整備事業」を活用し、3月末に据付型の自家発電装置を導入しました。

この装置により、新館1階（厨房・事務所周り・デイルーム）や井戸ポンプ、新館エレベーターに電力を供給できます（エアコンは使用不可）。飲料水・生活用水の確保、食材の安全な

保管や食事の安定的な提供、各階への人や物の移動、事務所機能の維持による外部との連絡、などを行えるようになりました。また、新館1階から電源コードを各フロアに延ばすことによって、投光器などの照明の確保、ベッドの操作、医療機器の使用、扇風機の使用なども可能になります。

もちろん理想は災害時でも全館のすべての電力を確保することですが、そのためには莫大な導入費用がかかるの

で、BCP（事業継続計画）の現実的な計画として今回の装置の導入に至りました。今後も、災害に強い施設を目指して改善を図っていきます。



本館北側スペースへ設置



非常用自家発電設備本体

介護福祉士に合格しました！

4年前EPAベトナム人職員として初めてときわ園に入職した2人の職員が介護福祉士国家試験に合格しました。合格に至る道のりについての2人の感想です。

ホームシック克服がポイント ティエン トゥー職員

日本に来る前に「石の上にも三年」という慣用句を勉強しました。当時、日本語が苦手なせいか、人生経験が無いせいか、その慣用句の意味を完全に理解できませんでした。



6年前にひらがなの文字を学び始め、その後働くために日本に来ました。日本に来てからあっという間に4年になります。その間、むずかしかったことは何度もありました。母から電話があり、「最近の生活はどう？日本は美しい？」と聞かれました。その時、よく母に「大丈夫」、「元気」、「日本は美しい」と答えました。しかし、心の中では孤独でした。ここに家族と友達がいません。私だけではなく、日本にいる多くのベトナム人労働者は孤独を感じていると思います。仕事が終わったら部屋に戻りますが、今日は仕事で疲れているので明日勉強することにしようと思うことは、よくあることでした。

日本での生活と仕事においては多くの問題が起きましたが、結果がどんなに悪くても、日本に行く前に設定した目標なので、頑張ってきました。介護福祉士国家試験に合格したことは、これまでの成熟度と忍耐力の証明書であると思いますので、最も幸せなことでした。

日本で働いている際には皆様が簡単なことまで教えて下さったり、声をかけて下さったりしていただいたので、本当に感謝しています。そのおかげで、ホームシックを克服し、これまで頑張りが続けることができました。心より感謝申し上げます。



ご利用者と共に

短時間集中型の勉強で合格 カイン チー職員

日本に来てほぼ4年になります。最初、介護の仕事は未経験でしたが、幸いなこと与时わ園の上司や先輩たちが優しくて色々なことを教えてくださったのでやりがいや面白さを感じました。



目標となるのは「介護福祉士」の資格。最初、勉強時間がたくさんあると思っていたのでゆっくりと勉強しましたが、介護福祉士国家試験の勉強を始めると思ったより難しいと感じました。しかし、難しい専門用語も慣れてみると面白く、日本の社会や法律についての理解が深まり、日本の福祉制度は素晴らしいと感じました。

仕事と勉強の両立が一番むずかしかったです。「1日2時間」勉強すると決めるのではなく、眠い時は寝て、やる気がある時に集中して勉強しました。集中力を保ちにくい性格だということが分かったので、短時間で集中して取り組み、休憩もしっかり取りました。同じ職場に同じ条件で入職した勉強仲間がいたので心強く、頑張れました。ときわ園が専門の先生の授業や資料や勉強時間を提供し、いつも応援していただいたので、本当に感謝しています。

一生懸命勉強したのに、試験当日は見たことのない問題がけっこうあってあせりましたが、見直す時間があり落ちつくことができました。介護福祉士国家試験に合格し嬉しかったです。

これからも介護の仕事を続けます。仕事をしながら様々なことを学びたいと思います。私の名前や顔を覚え、私のことを気に入って下さるご利用者がいると、仕事のやりがいを感じとても嬉しく思います。



ときわ園自習室

多床室の魅力 『自分らしさ』を発揮できる場所

ときわ園に就職し、新館で就業を開始しましたが、約5年前に従来型の本館へ異動となりました。新館ではユニット型個室であり、本館は昔ながらの病院と同じような従来型多床室でした。当時は本館へ初めての異動だったこともあり、今後やっていけるか不安もありましたが、新館とは違う環境に身を置き、本館での魅力を発見する良い機会になったのかなと、今はそう感じます。本館の『魅力』は、人との繋がりや、ぬくもりを肌で感じやすいということです。何か、近所づきあいの

延長線のような感覚であり、新館にはない本館としての一体感が、ご利用者の方からも働く職員の方からも感じ取ることができます。お互いがお互いを見守っている雰囲気、誰かが同じ空間にいて安心感

を得られやすい、利用者同士の会話も生まれやすい、そのような様子を感じます。

居心地が良い環境であり、『自分らしさ』を発揮できる場所ではないかと思います。



こもれびの庭で散策



生け花を楽しむ

本館1階介護
主任
中村 和裕



ジャパン・レジリエンス・アワード 優秀賞受賞

社会福祉法人常盤会は第8回ジャパン・レジリエンス・アワード優秀賞を受賞しました。4月28日、東京都港区の赤坂インターシティAIRで授賞式が行われました。

ジャパン・レジリエンス・アワードとは何でしょうか。「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）は、次世代に向けたレジリエンス社会構築へ向けて強靱な国づくり、地域づくり、人づくり、産業づくりに資する活動、技術開発、製品開発等に取り組んでいる先

進的な企業・団体を評価する制度です」（一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会HPより）。

社会福祉法人常盤会では、東京大学生産技術研究所および株式会社ユータイズの協力を得、BOSS（災害対応工程管理システム）の作成に取り組んできました。BOSSは元々自治体向けに開発されたものですが、常盤会で

は福祉施設向けに改良を進めてきています。今回、このBOSSが評価対象となり優秀賞を受賞するに至りました。

社会福祉法人常盤会の下で運営されている特別養護老人ホームときわ園の一層の強靱化を図ることが、日本の国土強靱化に寄与するものと確信しています。

施設長
酒井 章年



受賞式

活動ログ

3/14

夜に大地震と火災が起こったらときわ園は大丈夫？

日中であれば多くの職員が働いているので災害対応しやすいですが、夜間ではそうはいきません。夜勤介護職員が4名、夜勤介護補助職員が1名、宿直1名の合計6名しかときわ園にいないのです。どうしたらよいのでしょうか？

カギは訓練です。特別養護老人ホー

ムときわ園では、毎年3月に夜間帯を想定した避難訓練を実施しています。今回は、夜間に大地震発生、それに続き火災が発生という想定で行ってみました。特別養護老人ホームときわ園では今後も防災、減災を意識し、災害に備えてまいります。



避難訓練前の夜勤職員と宿直との綿密な打ち合わせ

3/15-16

「またお寿司を食べたい!」～お寿司の出前イベント～

本館でお寿司の出前イベントを開催しました。コロナ禍でご家族やご友人と自由に会うことができなくなり、外出、外食等の制限も加わって、生活を自由に楽しむことができなくなってしまった今日この頃。コロナ禍ではありますが、ご利用者のご希望を叶えられたらとの趣旨でお寿司の出前イベントを計画しました。

メニューからご自身でお寿司を選び、好きなお寿司を召上っていただきまし

た。ご利用者から、「毎月やりたい」、「またお寿司を食べたい」等のご意見をいただき、いつものお昼ご飯と違う“出前のお寿司”を楽しんでおられました。

お食事の際の見守り等、フロア職員、看護師で協力し無事にお寿司の出前イベントを開催することができました。食は生きる喜びを与えます。ご利用者に喜んでいただけて本当によかったです！



宝鮮にぎり召し上がるご利用者

4/6

俳句を作りました お題は「花」

特別養護老人ホームときわ園の本館のご利用者が俳句を作りました！お題は「花」です。そのいくつかをご紹介します。



俳句を作りました

サクラ見て 生まれ故郷を 思い出す

きれいだな 今朝も目ざまし 頑張った

春のよい 桜めでつつ 酒かわす

さくらもち 食べたろうまし おおぜいで

さくらばな おもいでしのぶ なつかしさ

さくらさき おもいでふかき しのびなく

園の庭 われにほほえむ 山桜

さくら咲き 思い出酒を もう一杯



編集後記

今回の表紙の写真に注目した読者も少なくないでしょう。これまでは、ときわ園内で撮影した写真を掲載してきましたが、今回はソロモン諸島ガダルカナル島の風景です。岩井管理栄養士が海外協力隊として派遣されていた際に撮影した写真です。ガダルカナル島というと太平洋戦争中の悲惨なイメージを持つ方もいるかもしれませんが、今ではこのような平和な環境が実現しています。世の中全体がこうなることを願います。

